

へ遠13
2209
17



遠 13
2209
17

繪本豊臣勲功記二編七之卷

目録

長岡之淵を奉救護覺慶

属箕俣元急

新公方出江別枯朝倉家

属朝倉系圖

豊臣記二編七之卷



朝倉家元服

属明智出姓

濃河勳座信長賜義昭

属淺井系圖

繪本豊臣勳功記二編卷之七

櫻澤堂山編輯



長岡之淵... 後門... 院... 難... 止... 乃... せ... 武田... 惟...

信賢同肥後守忠直二階堂孫治も秀大和治部少輔孝家橘島
 玄蕃元照光とてあまの外波是の甲乙人東流の如く免れしことども
 是も戦國小主人の辛く苦ふく五百人の投捨ありて
 自力も小懸るる相應の國守と祈禱ありて大將品をならし
 當在て六角兼復入道の當國の大名とのひ故將軍の所代り管領
 代小補せらるる恩顧の由緒もこそあまの禱のよき詞もあはと大
 館治部大補宗貞と祈使者とて情まをさる小佐々本家の内乱のま
 種ありしにまが必系く如祈ももまわらせむ新て果と評定ありて
 永祿九年の春若狭の武田義統より若別へ所動座の事を重くあは
 こまふて秋の初所近侍僅や具したる若狭へ所城ありて國校
 されば大義計策此地ふりて大施ぐと又他國へ所出のしと思へ

なる機会うら六角兼復使者と免れさせ急ぎに南へ所動座ありと
 奉りしに新公方源光悦し多ひ同く兼復を小いして若狭に南へ運所
 ある徳に所より兼復の嫡子右衛門督義綱所近小免とて親音寺の城
 へ寄まわらせ祈を衛のことども尋常あらねば新公方殊小安達ま
 父子と近るる義を奉りて利家を再び真くまわらせ事偏小佐々本
 の脅力ありと最頼母く命せらる兼復義弼護を祈奉りやあげらる
 運信と好松水俣と謀買を玉とん事神速小せんとなむまこの
 之回案内乱ありて城中の諸士ころく小評定一政つらむらむ是小固く
 當年に此位城中小滞留も事章り候も早く征奪り候とて言
 状よるに強ふもとおがさし此歳に殘る日も微くまを候とて若狭小
 所越来ましく新兼復が新公方を自國小移し奉りしを本心を尋ぬる小

這父子之好のこ人小姑も。呼容まわらせし不意を侍を計りしあり既當
 来も暮りて明も。水禄十奉ふんぬ。兼復父子の好容より。情もれ
 ていありあざら首係故將軍の津連枝あり。裁せん事も最憐やと心も右左
 定まりて正月も稍過ぎ。如月初旬あり。情小こ好家より使者こ
 ころ此月迄波所新義栄公將軍小あらせし。いづとも慈ふき津殿
 見の人もあるま。兼復父子と洛せし。いよ義弼管領小補子と。向兼事
 と執達せらるる。いし。所教書とりん命下さる。兼復父子こそと拜し。在躍
 たる。速ふらも。後次。然る。念く。新公方と火急小計りまぬらせんと。そ事小の
 日夜せらる。千急万考ととり。いも長岡大館一及飯沼遠依の忠臣。晒
 近して。疎忽小事と謀らま。されが。管此よ。い。主と。特。其。作。の。城。へ。成。ら。せ
 矢からし。意と。窺く。て。裁せん。い。は。と。衣。謀。の。方。御。せ。定。め。義。弼。於。て。津。弟。小

祇儀一春小あり。惟ても。遠山寨の松柏の。い。指。て。愛。務。風。情。も。あり。恰。也
 後集の所督散の。い。義。弼。居。城。あり。其。作。の。城。へ。成。せ。ら。る。い。備。前。の
 様。花。香。満。く。い。惟。也。も。隣。家の。兼。花。も。い。と。う。會。せ。終。日。花。下。小。酌。酒
 と。調。へ。輕。危。と。危。せ。至。せん。小。所。應。小。も。あり。ま。ぬ。らせ。んと。勸。め。所。り。こ。と。ま。り。う
 一。い。新。公。方。を。望。り。と。令。せ。ある。然。ら。公。明日。津。成。と。約。し。矢。ち。らせ。違
 出。を。新。公。方。小。義。弼。が。明。天。の。い。わ。し。し。得。小。も。真。ある。律。小。わ。が。い。ぬ。これ
 南。都。落。後。より。已。兼。幸。若。の。い。と。隨。身。せ。長。岡。之。洲。和。田。の。い。忠
 臣。軍。が。情。也。も。慰。め。た。や。と。い。わ。ぬ。い。と。夜。と。曉。い。ぬ。い。ひ。る。が。誰。と。い。わ
 ら。を。紙。盾。隔。より。今日。の。津。遊。の。い。賢。所。由。影。あ。らせ。ら。る。か。ら。と。い。と。前。よ。り
 伊。賀。守。惟。政。より。諸。勇。士。も。共。小。進。出。ま。の。い。ら。む。何。試。に。い。と。日。系。より。使者
 来。て。誓。時。兼。頼。と。聞。被。り。い。由。地。小。還。亦。せ。律。あり。是。を。極。く。義。弼。案。より



六角義彌
新公方
箕作小
請

害
加
計

を寝ひいふもなりて執せんを力量武術小勝き一のせと四十人撰出。庭
 の深中法假山陰小針事とくめて解をそけ外遠方形等の隅小多士
 數百を埋仕させ義弼一喝をいふ小願を嚙号して赤て奈ると謀人をも近士
 の個く一人も刺さざりて殺捕らんを準備せり。然ども長岡之淵候を驟く陣も
 沖勢せで若れた右小伺ご一軍の事を倣出をす此間も多し。時小形公方の
 傍より竹丸とて小児危後突と起りて深庭の櫻ヶ下へあま依るを義弼
 看るより声かけ。形を濃あり新に方家のいまど所出もあはらむら梅ヶ
 のことと哨りけ魚小徘徊たるこそ罪いとふりたき速速に返さし可也と形公
 方所へこれ意意なれ亭主の言説庭小放りる花の文法尋常あらぬ風情
 ろまを嘆し別の瞬意あらん小をく停らぬ奥もまをらぬ。いづきの邊の花はあ
 が深くらん小や試み奈とて口属する詞小をあると命せらる小義弼も心安途て

誅しころ竹丸今このま寧りと泉水の涯を切り樹生るこの後隙を窺ひ
 こそまより假山の土小登り。四方を鳥と視流を小如指し力さしこ十枚の御書
 の際小露顆さきころ。竹丸さて心小秘し。素法亭小願小をうて漸小
 朝ひ重きまらる。いづも亭主の地を高く杯花名本かや死が中。小に於て
 殊ある花の誓ハ南西小なる目へ假。假山の濃陰こそ真あることふて假
 つば上様小も彼所へ所産を移し。まをさよとりのふと小属く義弼もよ死やじ
 ありと一舟小然が假りの假山へ所遊小困て殺さるまをば所心小も偏ひましまん
 然居あがら目とるふ景あより。一院所歎と勸めん小登させ玉と謂つも漸先
 小起て庭前へあよりを喬えし。所植小あらせ玉と據おて家と長岡せめ
 よせらる義弼。願量の兼備せり小も流あ山の陰のまあらじ。城中都て二十
 と殺むる拒案せしむる小向編あり。願をまを道る。諸もあらん連も死ぬへ

き自身ありと懸る事做出して違ひなきとていへども是利家の名お小
こせ方僅いそ又運小信とるより外思慮すると思召斬りてけ
長岡藤孝所心を勵まし小臣をくせ相巡りし小背門の堀外に絶崖を
く塗りまは要法の傳も見え惟新運せ又小信せりひ波絶崖より
遁まさせむとて。福和田伊賀守と謀合せお死させば今比いそ伊賀守
惟波波堀外へ所迎小花出作へ。はく此後より所出あり且所をせ所極敷
の扇門へうち掛寄せさせんとて。厥まは他目小所をせ所極小より分を
傳小款通より時小陸小所も遊より敷まわらせんと云状なり。新公方を
背門の方かこいまわらせ自身小亭座小ら近より公方頼小花の下へ波所まはせ
ぞや。そ準備とて重くゆる義弼とらえ。假山の傍小所座と設け種々の具と
りち送り所出おそいと候とて。後考るやも款とてと義弼は對ひ公方小

る例の如く所極小陸全より。又小臣一割伺ひ来ん小。と亭座へ送りまはせ
して。こ測小目注し。背門へ走匣り。經るは法華山の觀音寺山へ所使あり
と報小弁て。但徑づり小測より伊賀守の對公方家と背小まらんと員
まわらせ。翻が像く小教智川の西小傍へ走りて。遙小青徳ん心安途
測く小く西すも。馳若難る此まを。通得るを。連小喜ひ祝し。まわらせり
か。免さ。虎口を。通得させたること。所運忠とて。在り。また。所家。再興の
瑞相あり。徳より。必定。所本意と。遠させ。至る小。鼓ひる。と。作き。起つ。偏奔小
湖水を。當て。零行と。みひらけ

新公方出江列恬朝倉家。屬朝倉系圖

漢者いづんを。龍と。綱へ。得らんや。然や。ど小。箕。此の。城。中。小。義。弼。心。小
殘るる。や。假。山。陸。小。所。出。あり。は。龍。中。の。考。と。情。小。喜。ひ。待。と。る。也



和田伊賀守

新公方を救

すゝめ

箕作の城に

虎口と連

出る

新治治さし。いさありし。使を参らせ。新植のうちを伺はる。小使慌て
 走返り。新植殿の扁門。小新名と掛させし。新公方家の中を
 まさよと長岡。之園も相見し。とまき。小義弼うち發き。在浦小房
 て訊き。小兒危後行。丸多。てい。あう。公方。今。ご。こ。小。解。一
 た多ひぬと。親。寺山。還。新ありし。と。所。う。大。小。懐。想。を。益。小。や。ね。と
 勞つ。律。と。奉。指。り。之。悔。を。給。り。東。西。の。うち。小。親。音。寺。山。より
 使者。走。来。り。て。新。公。方。の。被。城。中。も。還。新。ありし。若。知。ら。ま。る。に
 ま。と。く。悵。を。送。き。と。り。く。朝。づ。き。や。と。心。惑。ふ。て。居。る。亦。へ。發。發。音。
 と。愛。せ。し。ま。る。の。一。老。人。家。と。出。て。義。弼。が。被。せ。し。入。洞。と。流。し。て。も。一
 々。あ。う。還。程。より。心。懐。お。今。天。と。そ。君。が。奉。音。の。如。く。新。公。方。家。を
 托。し。ま。ら。せ。と。好。の。約。小。頼。ひ。ん。と。謀。り。し。事。も。と。や。漏。れ。公。方。も。還。死

た多ひ。律。の。ま。ま。使。事。も。あ。ら。ぶ。ら。と。是。利。將。軍。新。公。方。の。道。す。た。ふ
 不。あ。ら。ん。然。し。ま。ま。官。易。殿。と。ま。ら。ん。律。決。と。偶。ひ。り。ま。す。并。新
 公。方。家。當。國。へ。入。新。す。く。怨。敵。還。治。り。ま。す。て。將。軍。公。方。の。幕。府。を
 再。真。せ。ん。と。依。る。本。の家。を。情。ま。せ。う。あ。ら。ん。夫。執。牙。の。名。を。あ。ら。ん。と。必。然
 こと。ま。の。新。心。小。天。魔。の。魁。り。し。小。や。こ。ま。と。謀。り。ま。ら。ん。と。事。武。勇。の
 家。に。飛。騫。と。い。ふ。一。當。家。小。新。の。前。將。軍。光。源。院。殿。の。恩。澤。ふ。く。ま
 入。通。せ。し。管。領。付。と。ま。と。ま。ら。の。具。加。と。お。わ。ら。ん。前。將。軍。の。新。公。方
 之。好。を。謀。り。て。新。公。方。家。を。補。佐。し。ま。ら。ん。と。ま。ま。苦。あり。ま。す。公。方。小。背。死
 逆。ひ。報。還。を。道。の。こ。好。小。興。力。し。新。公。方。を。法。と。し。ま。ら。ん。と。人。倫。を。害。ひ
 武。門。を。汚。せ。り。先。祖。源。三。秀。義。より。十。有。余。代。の。子。孫。と。し。て。一。夜。も。謀。反
 の。名。を。と。ら。ん。と。幸。あ。ら。ん。と。新。公。方。家。より。遠。遺。依。り。ま。家。を。頼。ま。し。ま。ら。ん。と。

先祖の靈の導りたるふふあり。登り逆賊の好敵小兵力の心と違雲
 せらる忠義の義氣と潔く。新公の家小將佐意し。勇々を束せ小
 旗のたふと理責て諫むる少。義弼大船入て面目をば小言自もく。
 遂小害心と止むる。夫の圖に新公の家小長岡の淵和田のこ士小虎
 口は徳を救ふま至ひ湖を當て零行をりるが頃。浪経の向小水船所へ
 て右平小湖水の逆ふか。深くこく露彌を。流す舟のありと右見
 たり見と行儀小義善調。渚のりも深倦を。棄捨し。鷺戸の小舟の見たり
 と天の賦と君臣四個雀躍り。て系福を。怪し。ばも帆席と。まとゆ。申さる
 一個の武士抽と起出四個を見。誰かて。ら。せ。あ。ふ。と。同奉と。和。田。惟。政。の。一
 潜る。あ。れ。緯。と。あ。の。隨。く。き。る。由。船。は。侍。頭。小。平。伏。し。小。浪。此。お。侍。奉。る。緯
 稍。の。時。の。て。掉。さ。く。と。あ。ら。せ。ん。と。大。余。の。萬。を。把。整。と。草。根。小。田。と。る。鏡。解。と。り。

一張二張掉さくどふ。い。つ。け。と。漕。放。是。六。七。日。と。流。出。て。風。を。順。り。心。帆。お
 よ。と。い。ふ。小。應。も。早。舟。の。横。濱。を。と。来。つ。る。頃。も。使。暮。を。成。と。死。さ。六。月。東
 山。小。腫。さ。り。湖。上。の。夜。果。と。眺。る。教。氣。を。含。む。花。小。百。倍。勝。と。て。隠
 と。と。と。船。り。ひ。と。あ。ふ。波。の。う。ね。く。曉。更。ち。り。刻。鐘。小。之。尾。が。時。へ。ど。つ。れ。至。不。此。地。の
 朽木宮内大輔貞綱 依き本志舟なる相定綱の後胤なり の。米。地。あ。ら。ま。は。長。岡。の。淵
 を。使。さ。る。と。時。ま。た。多。ひ。ら。さ。り。小。舟。子。河。内。守。元。綱 流布が氏統補 と。出。し。と。河。邊
 だ。く。ま。り。う。疎。意。を。く。御。意。應。ま。お。ら。ま。と。も。此。朽。木。若。の。地。形。い。と。窄。り。も。六。多。勢
 の。集。會。偶。ひ。さ。し。と。若。使。の。武。田。義。統。と。り。て。越。前。の。朝。倉。を。新。報。と。あ。る。素
 朝。倉。と。武。田。と。い。ひ。と。こ。あ。ら。ぬ。内。縁 此武田義統の孫あり初め元次とのふ義統の室の孫朝倉
の室の武田義統の御孫武田元光の孫也 多。ま。は。義。統。た。右。さ。り。謀。ひ。ま。ひ。ら。せ。同。奉。四。月。の
朝倉義景の室の義統の御孫あり 下。漸。若。使。の。圖。へ。所。動。應。あり。此。を。將。依。の。諸。産。を。招。ぐ。と。義。統。と。り。て。朝



新公方
 死場を出て
 琵琶湖の
 活水の葦原
 まで



倉へ所頼あらせらるる開も越前國の朝倉とひふ人王と十七代孝徳天皇
 第二の皇子子有間王の皇子孝徳天皇の王親て目下部の姓を賜て但馬の國小
 下向より海をその子孫とて武士とささるる但馬朝東郡於赤木之地頼
 ありしむ武門の名譽累代て朝倉孫右衛尉廣宗元弘の頃を盡みせ
 しが是利多氏公丹羽篠村小義宗と奉さるるひり响廣景但馬よりを
 系り足利尾張高経新波武衛の先祖ひて越前の守護職ありの隊小加する廣宗軍忠拔群あり
 とて経を色と深く賞さるる自家の執事小補一越前の足羽郡黒心
 丸の城をとりむ是より數代相續て文正年中新波義武衛尉家
 督と争ふ事小よりて臣家も分きて合戦とて比の朝倉ハ弾正左衛門
 尉敏景とて武勇絶倫の種將あり越前一國を次靡け威と隣國小
 奮ひりるが應仁大亂の响小至りて細川勝元の陣小加り數將軍功

と頼一けは六東山殿所賞義あり越前の守護よりむ遠祖頼朝
 教書より陪臣の列と擡て大名の座小至らるる敏景より仁義と
 尊ぶ一治國法政事小非道あり敏景生涯の智足まると入道ありて
 英林と号と目赤大野郡一系谷小城を筑ひ此よりて本城とし
 文明十三年七月廿二日終小館舎を捐らるる其子孫右衛尉氏景
 家督よりしが六年を経て文明十八年七月二日十八歳小て早世を氏景の
 嫡子彈正左衛門貞景十四歳小て家督と相續然る小彈正貞景ハ文武満
 足の良將小て將軍ハ忠功志とくあり公方家こまを河相傳最小く
 さらしむを流る事十七の春秋を経て永正九年二月廿五日鷹野の
 不意小卒をせり其子孝景十九歳小て家督よりて國政を多故又家督
 貞景の弟左衛門尉景景貞景の弟左衛門尉景景万端こまを執行ひ教實郡合志湯の城小住せり又孝景系

若狭の領主武田大膳を文元光の妹と迎へて妻と爲す。然とも男子ありて
 ありて引佐木氏綱の末子と爲す。孫次郎信宗と号せり。文
 元十七年三月廿七日若狭行末十六歳一室宮小春をせり。若狭生
 涯佛陀と号し。寺院ありて建つるも。叡山小宮く佛宇を造る。此
 信宗十六歳朝倉の家と相續するに時の管領細川晴元娘と送る
 小春小娘。光源院殿護持の所一字を賜ふ。大膳曾義景と号む。然
 とし。もと性質古又實又小似るや。武道小味く利根。源
 氏家の治力あり。武勇の臣家多死。水陸道の
 龍をくるとり

新公方を朝倉家所元服属州智出姓

若狭若狭の千辛万苦をとりて。武勇の臣家多死。水陸道の
 龍をくるとり

若狭の領主武田大膳を文元光の妹と迎へて妻と爲す。然とも男子ありて
 ありて引佐木氏綱の末子と爲す。孫次郎信宗と号せり。文
 元十七年三月廿七日若狭行末十六歳一室宮小春をせり。若狭生
 涯佛陀と号し。寺院ありて建つるも。叡山小宮く佛宇を造る。此
 信宗十六歳朝倉の家と相續するに時の管領細川晴元娘と送る
 小春小娘。光源院殿護持の所一字を賜ふ。大膳曾義景と号む。然
 とし。もと性質古又實又小似るや。武道小味く利根。源
 氏家の治力あり。武勇の臣家多死。水陸道の
 龍をくるとり

て奔走せり。新公方家出所時も速く。義を以て新徳を奉らんと。兵を以て懐微さる。一宗谷へ所使者を遣らし。遠義を遍く命じ。右左延引る。ひらる。不謂と仔細に訊く。朝倉宗家代の諸下。塘江七角。景忠といふ者あり。利仁將軍の後胤。て宗家の一族あり。坂井郡。塘江本庄の領主として。代々武勇の名を流し。然る小を奉り。忠を實の終を守り。義を奉り。密に怨を本庄の城に播種。今戦ふ。及ぶ。とも。宗忠を以て。を以て。遂に敵とくして。敵軍と遁去。加賀の國へ墜入。行ぬ。當事加賀の奉願寺領あり。門徒の一揆。諸所奉り。合戦の最中。宗忠を以て。塘江に宗忠が。たつ。と。幸ひ。このことを奉用。大將と。なる。小。塘江。七角。得。つ。と。後。び。一。揆。輩。を。引。率。し。て。敵。軍。一。部。を。入。せん。と。し。て。義。景。を。以。て。防。人。爲。す。屢。出。陣。し。る。が。由。り。新。公。方。家。の。新。徳。奉。も。よ。う。く。延。引。ら。る。と。

あり。新ての果つれば時も。知る。ね。ね。長岡。密に。公。方。へ。重。し。く。加。賀。城。前。に。和。後。せ。し。む。然。も。兼。々。と。冬。中。に。國。の。例。に。深。雪。中。に。進。退。も。小。自。由。な。ら。ね。ば。京都。所。奉。向。の。事。に。明。奉。小。使。を。遣。し。同。年。十。月。廿。日。金。子。崎。に。新。徳。奉。つ。て。一。宗。谷。へ。所。報。あり。安。養。寺。に。て。新。徳。館。を。目。出。し。春。に。遂。に。た。多。ひ。永。祿。十。一。年。と。あり。ぬ。ま。も。弘。生。あ。ら。ね。が。雪。消。る。と。公。方。へ。討。と。び。玉。ひ。日。に。集。て。ぞ。お。し。ら。る。が。い。つ。ら。二。月。の。天。不。の。り。け。り。と。或。時。義。景。安。養。寺。小。使。候。に。誰。を。言。状。し。ら。る。逆。居。退。伐。の。大。將。軍。が。新。元。勝。あ。ら。ね。が。登。ら。ら。ば。吉。日。に。新。撰。と。わ。さ。れ。新。名。字。を。定。め。せ。お。さ。し。し。律。也。と。勅。め。ま。ら。せ。ら。る。小。使。に。遠。義。の。事。も。有。加。へ。使。り。行。ひ。の。り。と。し。と。し。義。景。を。管。領。代。に。准。せ。ら。る。新。加。冠。の。役。勤。む。ま。ね。命。出。さ。さ。ら。る。小。使。より。義。景。有。が。く。新。奉。り。し。と。全。ト。四。月。廿。日。吉。日。吉。時。の。ま。に。と。し。新。公。方。



覺慶
朝倉家
據立
義昭と
号らせ
あり





明智の妻
 緑髪と
 夫の
 客中の
 窮苦を
 帮助

豊臣記二編卷之二十一

十五



豊臣記二編卷之二十一

十六

道三の好む家も明智小左衛門を以て籠城し、其の義就怒てこまを攻め、小光康は、
 防ぐといふも、敵大軍小左衛門を捕起し、小左衛門持て、と戦死の覚悟あり、光秀
 及び光康の長男、弘平、光春、二男、光忠、遠之人を遁させ、後の奥謀、敵
 小左衛門は、遠圍せしむると、勅むまじき、更小所用ひを、借小戦死する、との道
 三、氣色のあり、小光康、おのり、色と、或は怒り、或は去りて、漸く、小明智の城を
 治し、小左衛門、於方、那も、光秀、依の、城中、道三、京都の、知己、を、精力として、
 姑く、彼、小左衛門、居たり、が、書、從、才、依、を、援助、する、小左衛門、の、才、活、計、を、
 く、然る、が、大、名家、小左衛門、奉、び、て、三、身、を、や、と、かり、さ、も、從、於、七、伴、圍、
 を、通、懸、せん、も、い、ろ、あ、ま、と、議、戦、天、龍、寺、小、親、依、あ、ま、は、從、身、二、人、と、
 の、と、置、妻、と、京、於、小、止、め、か、り、と、後、日、の、朝、を、謂、所、は、小、妻、從、と、
 終、り、強、も、の、朝、小、左、衛、門、と、女、の、一、回、良、人、小、晴、ふ、び、離、さ、る、と、道、三、と、

小左衛門も、其小伴ひて、又と、羈、籠、小、圍、め、居、あ、が、ら、待、い、負、あ、ら、む、と、
 山河の風雨、小左衛門、ま、ま、も、小、煩、ふ、と、操、と、い、わ、い、あ、ら、さ、り、づ、く、も、
 伴、て、玉、一、と、幾、行、て、を、探、詢、く、小、光、秀、も、も、理、小、屋、一、然、は、同、道、せ、ら、ま、と、
 弘治二年、九月、下旬、自、黄、梅、を、る、と、一、奇、小、都、の、空、を、辞、ま、つ、も、ま、づ、敵、後、
 諸、小、こ、ろ、ろ、ざ、し、上、杉、景、虎、が、武、道、を、教、え、ま、し、り、奥、列、の、會、津、小、川、は、
 名、成、盛、氏、が、ら、矢、を、掃、り、宮、城、郡、小、波、投、て、伊、達、輝、宗、南、部、小、安、信、の、京、
 風、を、考、へ、或、は、下、野、の、宇、都、宮、結、城、喜、連、川、を、徑、巡、り、常、陸、の、佐、竹、
 下、總、の、千、葉、安、房、小、里、見、か、ん、の、小、城、下、を、御、廻、り、家、々、の、風、儀、
 を、見、聞、く、然、し、て、相、列、の、ち、渡、り、北、条、氏、康、の、政、道、を、伺、ひ、相、根、を、裁、
 て、強、は、る、今、川、義、光、の、勇、氣、を、量、り、使、船、を、召、し、伊、勢、路、小、指、り、小、島、
 の、強、弱、を、探、分、し、列、の、地、を、上、角、淺、井、泉、列、小、素、て、之、好、の、者、後、目、播、磨、小、

七利元就
徹眼遠く
明智光秀
叛相と
観破す



五平の徳加引本願寺門後の輩落び一揆の發動し、越前領と據る事。急
 ありしに諸ふより、朝倉左衛門督義宗不怒り、一族あり、朝倉土佐守
 景行と大将とて、数千の多士と當向り。景行、数千の多士と率ひ、地不
 加列、奔向。大雪寺、敷地、月津、冲幸塚、の多小陣と布く。
 遠响、明智十兵衛、軍見物、のめ、彼不越、朝倉惣の陣の、多小、雨時、
 解きて、觀、し、小日、の、暮、を、成、入、り、沖幸塚の東、小、あり、一、條、の、赤、丸、
 沖より、南の方、傾流、る、も、先秀、遠氣、を、瞻、仰、し、小、あり、一、揆、の、門、後、輩、
 朝倉の陣中、不意と、駈、ん、ど、程、も、あらん、然、ども、越前、の、陣中、小、是、を、知、
 る、輩、あり、し、小、や、そ、は、準備、も、多、る、を、曉、漢、あり、も、引、こ、の、誘、あり、ね、朝、
 倉、へ、こ、將、佐、と、あり、(一)敗、軍、を、せん、も、氣、の、毒、あり、と、生、蓮、草、近、に、守、が、陣、
 小、河、で、程、氣、の、事、を、移、し、詰、り、次、段、の、小、心、か、り、と、密、を、多、く、小、近、に、

越、し、の、思、へ、も、ま、づ、又、將、小、先、秀、の、意、せ、一、條、を、詳、小、部、を、土、佐、中、實、も、と
 かの、以、總、軍、中、へ、伺、ひ、準備、せ、て、待、蒐、る、小、果、と、門、後、の、一、揆、輩、敷、
 百人、を、隊、部、多、し、情、地、不、推、進、り、越、前、方、の、視、と、し、準備、し、て
 待、こ、と、あり、發、動、も、や、ら、ず、擊、て、登、此、の、隅、崖、彼、の、切、を、小、追、詰、か、ひ、つ、免、
 斬、起、り、と、先、秀、實、時、見、物、せ、し、か、堪、う、ね、て、素、家、は、一、揆、の、逃、り、か、も
 あり、小、自、己、を、忘、れ、ず、急、率、の、を、統、じ、借、り、文、の、院、次、人、や、小、輩、
 仆、ら、ら、依、り、十四、五、町、も、退、蒐、一、揆、の、大、將、善、坂、伯、耆、も、迹、跡、を、脱、
 と、見、て、湯、ら、と、火、蓋、を、さ、り、て、敵、を、謀、り、と、善、坂、が、衆、を、督、せ、未、據、く、
 馬、より、控、と、隠、し、り、大、將、を、さ、り、と、あ、ら、ん、右、願、左、側、小、の、將、多、く、
 領、地、を、當、て、馳、走、を、朝、倉、惣、の、か、り、の、儀、不、追、敵、々、分、捕、り、十、分、小、
 新、捷、り、う、が、勝、岡、つ、ら、と、號、號、び、軍、を、纏、り、て、陣、陣、を、彼、先、秀、が、智、勇、

のいどせらる義里東小朝々まむ対面をべしとははひ出その人物を執り見
 る小器量尋常ありらむまむ素性を以てこそと抱へ五百貫を賦く
 けり光秀原素賞々まむ義里東の心小恒ひを侍小伺惟一軍論を揮せ
 巧小一りまむいりら出分加増して九千貫の禄を奉り新公方家當
 國(中)動座のまむり主人義里東の名代とて金が侍を交わしせし小
 新公方家より新態の禮意あらせらるる小時こそ得てこそと忠告し
 けり時を新衣衛ふめまむまむし新心算くおがまむまむ然る小新公
 方家一まむ後新ありて安養寺(まむ)まむ光秀日毎小伺ひまむらむ
 心中小なりまむ乃子朝倉の家中小ありて九千貫の禄を得まむも新系
 軍のまむしまむ舊中家の老居小輕くあらむとて近來速恨小ありらむ
 今此君小既近く他日と語あらむ物供奉せむ將軍旗下のまむとあり

先祖の家名も忽と得らるるは怯弱の義里東小後せんら新公
 方家と勤まむらむ尾濃の智將信長と行換らむとと思ふ小まむらむ
 侍の人まむ機会を顧義里東若く言出せらむ小居陪居の軀とのりて
 斯く言らるるは思ひまむ惟得まむ當國小新座惟てい新本意と
 遂にまむまむ律思ひもよらぬ事小惟まむ不謂らるる義里東怯弱あり
 こと近頃絶倫の奉止あり見君小も知れまむまむ今來六月廿五日
 義里東最愛の男ありて阿若丸病死せしより重傷とてこそ歎息し
 國家は政事も顧を兒女同様の心中ありまむ勿く義里東を憑掛せまむ
 りらる義を果しまむん如くは他國の良將とて新頼とあらせまむ
 小居君は新當少の身命を塵土小抛ち新上洛の御魁とまむらむらむ詞
 巧小言出らるまむ義里東若く言出せらむ諸國を遍歴しつらむ

風土の好醜武士の強弱種こそを識つらん申小然尾濃小なる鐵田上
 總領のいふにいふに答とと河尋ある先秀撰徳と書を指し入るる
 河明察う其信長とつる人の實小近代の英雄あり大張運居と好せ
 醜て君を系都へ還し奉る信長外あり惟まじ情と渠と河相と
 あまこと情徹て重きふより義昭君も表悦ましく明智が頼は是利家
 再興まつた神物あらん予方僅心を決しう縁故の信長先達と密
 小使者せきく被て速く濃列へ移るべきよし重きとつるも今義系を
 稱し去るべき方便と知らせ先秀がふふを計らひゆせと命ふ十萬石
 謹んで君にま一應義系へ河催但あらせりて一終を決着ゆべきに
 鐵田と頼もせり多中う命出さしたるをいと重きふ公方同心しこ
 ちひ上野中務大輔秀政長岡公助大輔藤孝友人と波皇城へ

遠ざま偏小極ませとあふしと命被せしし久信長一義小も既たて録
 受てえまつる報漸返答とをりたりと不

濃列河動座信長謁義昭 属淺井一系圖

知事ありとつる勢小系小如うと後基あつとつるも時を後小八表とと鉄田小
 上野長岡の西人の信長が叮嚀小河諾りやとをまつりしと大小執ひ初會
 の心中とい里白の相違ありと龍の雲と得る心地一速小を返り信長の口
 状と意もあ言吐せし久義昭君小の挑起たるとおがわ。河義系が深へ
 使者とつるし命出さる河説わ此系系純意の故、莫右の忠信義長名
 至りあり然る小前日一子阿君九早世の事然歎の心中察ありはせりこま小係
 心る。系都進其の儀遠慮せり然る小小美濃の鐵田より重上る報あまの
 を日濃列へ移るるの詞あり然るも義系も今小うらむを忠告所小せしむる儀

今度當國就退度忠義神妙思會俛向後身上
不可見放猶從大藏局可速者也

今度當國就退度忠義神妙思會俛向後身上
不可見放猶從大藏局可速者也

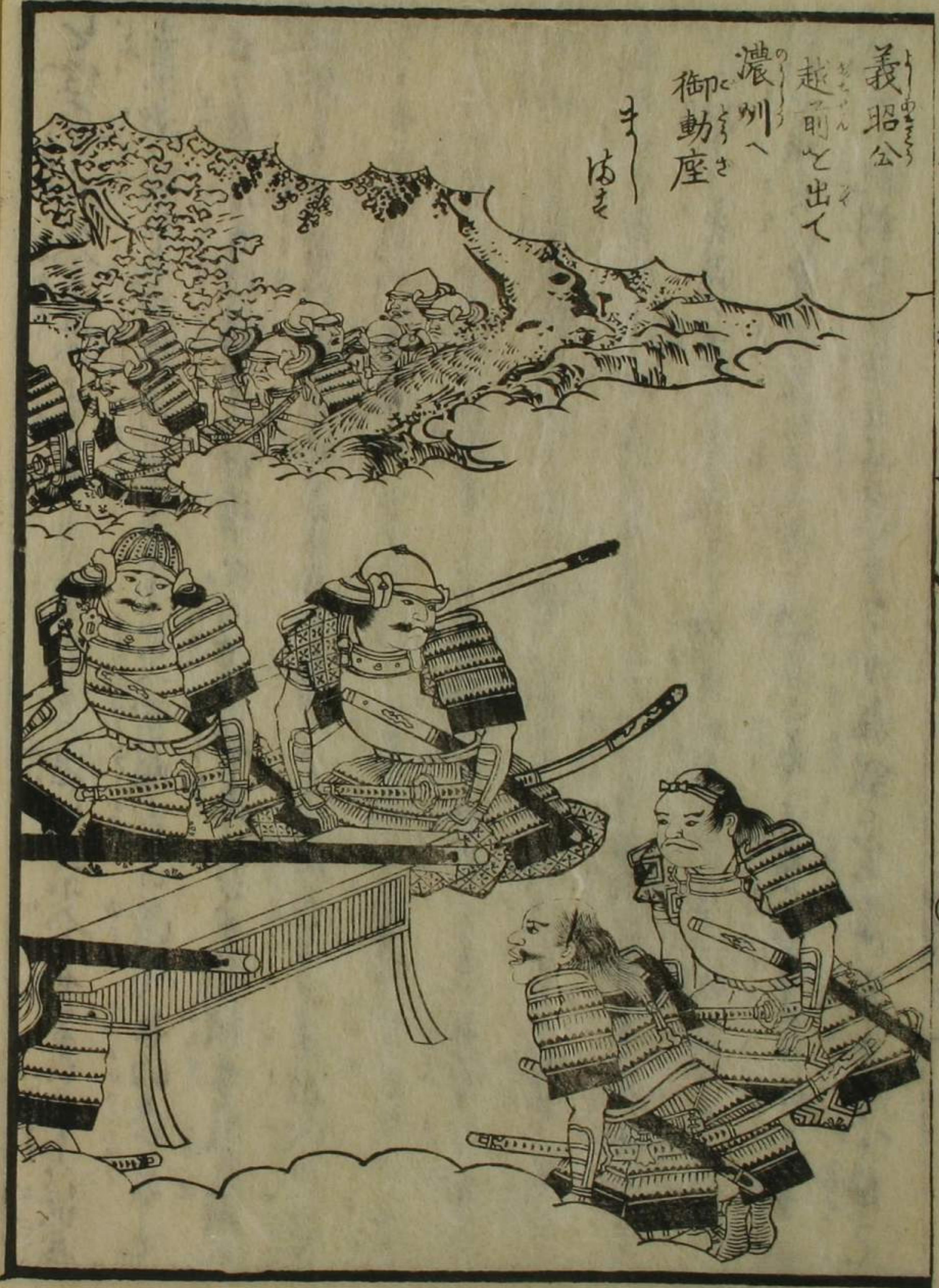
七月四日 漸判

朝倉友忠督どく

此のこく命出さる。漸退度多きをわたり。義軍もかく。漸見送の儀
こくの中務お捕果恒多らば。仙波右左衛門西人小二千余人せさ。添て路次
終つ。たてまつり。七月十二日。一茶谷安曇寺を漸辞あらせらる。供奉
わらさる。門を長園之園上野を。一茶谷より福井へ。府中兼波の里

を徑て。今日今庄小止宿ましく。翌十七日の近江路小入らせ。多ひ本下地
堂小漸語あり。雲時漸休息めさる。市(當國)小谷の法井長政夫とて。
君小鍋。小谷休恬寺へ請待て。町守小細等。たてまつり。越前守の御周
此所より。漸辭せられ。込さる。多小濃列より。漸途をて。不破河内守
菅谷九右衛門内藤勝分。二千余騎小て。赤坂向。路次の警急を。赤
ら。小谷小。之日。漸信寄あらせらる。此地を漸辭あらせらる。長政も。人連
漸借り。春照野を徐く。藤川へ。出らる。駒波早より。村井長門も。
島田和之助門まで。漸途ひを。まのし。法井長政へ。こ。小。漸
こ。此より。赤坂の東地。多。い。漸。地。寧ら。多。ひ。園。が。原。より。意。井。を
越。赤坂。の。寺。河。邊。を。こ。て。漸。法。早。小。多。村。井。長。門。依。事。小
鉄。丸。執。調。ひ。西。の。住。正。寺。を。り。て。漸。旅。館。と。定。め。所。登。意。の。人。を。送。り。

義昭公
越前へ出て
濃州へ
御動座
まはる



徳二
年
の
ま
ま
大
納
言
公
綱
初
勅
を
蒙
り
江
列
不
配
流
せ
ら
る
後
井
野
丁
野

徳二
年
の
ま
ま
大
納
言
公
綱
初
勅
を
蒙
り
江
列
不
配
流
せ
ら
る
後
井
野
丁
野
村
に
移
り
居
住
ありし
時
當
卷
の
郡
女
と
な
り
て
依
り
て
お
ひ
つ
り
小
遠
小
一
人
の
男
子
と
儲
く
そ
の
児
之
歳
小
多
う
つ
る
向
父
公
綱
御
初
勅
漸
次
あり
て
飯
沼
一
な
ま
も
そ
の
児
も
得
ま
へ
く
お
な
さ
り
ま
さ
と
村
中
に
憚
り
て
丁
野
村
小
遠
と
せ
ら
る
後
の
禮
と
お
な
さ
り
て
来
國
先
の
經
力
を
母
小
殿
へ
情
残
り
も
獨
都
へ
還
ら
せ
ら
る
後
に
御
初
勅
を
蒙
り
此
兒
知
雅
と
な
り
て
智
恵
殊
小
さ
う
く
一
歳
の
時
ありし
母
小
向
を
父
と
同
母
双
神
小
洞
と
挑
げ
て
不
來
と
稱
し
結
り
所
せ
遺
贈
の
經
力
を
照
下
六
儲
の
賤
く
亂
れ
し
い
ふ
も
な
と
家
を
與
ふ
都
人
の
と
う
め
を
適
ま
と
お
思
ひ
起
し
そ
の
年
の
冬
江
列
の
經
力
系
極
た
京
を
又
言
信
が
野
野
の
還
る
を
待
ま
り
由
緒
と
直
稱
し
奉
公
の
朝
を
な
り
ま
さ
り
言
信
と
と
大
小
野
村
を
進
せ
ら
る
こ
は
小
遠
と
り
て

上
代
本
豊
臣
勳
功
記
二
編
卷
之
七
終

上
代
本
豊
臣
勳
功
記
二
編
卷
之
七
終
後
井
野
丁
野
村
に
移
り
居
住
ありし
時
當
卷
の
郡
女
と
な
り
て
依
り
て
お
ひ
つ
り
小
遠
小
一
人
の
男
子
と
儲
く
そ
の
児
之
歳
小
多
う
つ
る
向
父
公
綱
御
初
勅
漸
次
あり
て
飯
沼
一
な
ま
も
そ
の
児
も
得
ま
へ
く
お
な
さ
り
ま
さ
と
村
中
に
憚
り
て
丁
野
村
小
遠
と
せ
ら
る
後
の
禮
と
お
な
さ
り
て
来
國
先
の
經
力
を
母
小
殿
へ
情
残
り
も
獨
都
へ
還
ら
せ
ら
る
後
に
御
初
勅
を
蒙
り
此
兒
知
雅
と
な
り
て
智
恵
殊
小
さ
う
く
一
歳
の
時
ありし
母
小
向
を
父
と
同
母
双
神
小
洞
と
挑
げ
て
不
來
と
稱
し
結
り
所
せ
遺
贈
の
經
力
を
照
下
六
儲
の
賤
く
亂
れ
し
い
ふ
も
な
と
家
を
與
ふ
都
人
の
と
う
め
を
適
ま
と
お
思
ひ
起
し
そ
の
年
の
冬
江
列
の
經
力
系
極
た
京
を
又
言
信
が
野
野
の
還
る
を
待
ま
り
由
緒
と
直
稱
し
奉
公
の
朝
を
な
り
ま
さ
り
言
信
と
と
大
小
野
村
を
進
せ
ら
る
こ
は
小
遠
と
り
て
後
井
野
丁
野
村
に
移
り
居
住
ありし
時
當
卷
の
郡
女
と
な
り
て
依
り
て
お
ひ
つ
り
小
遠
小
一
人
の
男
子
と
儲
く
そ
の
児
之
歳
小
多
う
つ
る
向
父
公
綱
御
初
勅
漸
次
あり
て
飯
沼
一
な
ま
も
そ
の
児
も
得
ま
へ
く
お
な
さ
り
ま
さ
と
村
中
に
憚
り
て
丁
野
村
小
遠
と
せ
ら
る
後
の
禮
と
お
な
さ
り
て
来
國
先
の
經
力
を
母
小
殿
へ
情
残
り
も
獨
都
へ
還
ら
せ
ら
る
後
に
御
初
勅
を
蒙
り
此
兒
知
雅
と
な
り
て
智
恵
殊
小
さ
う
く
一
歳
の
時
ありし
母
小
向
を
父
と
同
母
双
神
小
洞
と
挑
げ
て
不
來
と
稱
し
結
り
所
せ
遺
贈
の
經
力
を
照
下
六
儲
の
賤
く
亂
れ
し
い
ふ
も
な
と
家
を
與
ふ
都
人
の
と
う
め
を
適
ま
と
お
思
ひ
起
し
そ
の
年
の
冬
江
列
の
經
力
系
極
た
京
を
又
言
信
が
野
野
の
還
る
を
待
ま
り
由
緒
と
直
稱
し
奉
公
の
朝
を
な
り
ま
さ
り
言
信
と
と
大
小
野
村
を
進
せ
ら
る
こ
は
小
遠
と
り
て

上
代
本
豊
臣
勳
功
記
二
編
卷
之
七
終

廿八

